

すか？
これも「公職追放令」の弊害なのです。この「公職追放令」が特に厳しく行われたのが、学校、報道関係だったのです。

戦前の国立大学は「天皇の大学」だったので、左翼思想家や、当時のソ連社会主義に通じている人物は、辞めさせられていました。

しかし、この悪行「公職追放令」により、元の良識ある、日本の将来を真摯に考えてこられた先生方は追放され、それ迄に辞めさせられていた左翼思想家や、ソ連の手先が、真つ先に呼び戻されたからです。

この結果、日本の主要大学の学長と云った重要な役職は彼らに握られ、大学社会は残念ながら社会、共産主義に握られてしまったのです。

その弟子達が、戦後更に多くの大学に散らばり、彼らのつくった公務員試験で

官僚や公務員を選抜したのです。

これらを主導したのは、当時のアメリカの外交官、ハーバード・ノーマンという人物で、彼は、実は当時のソ連のスパイだったという事実が発覚しています。

当時のアメリカ、GHQの方針は、いかに日本を弱体化するか、その一番の方法が、実は、日本を共産社会主義化することだったのです。

話を元に戻しましょう。明治陛下の示された「教育勅語」こそ、今の日本の教育に真に必要なことは、云うまでもありません。

小学校低学年で英語を教え、高学年になればコンピュータのプログラミングを教え、体育の授業ではヒップホップダンスを踊らせる。一体、どこの国民が出来る。あがるのでしょうか？

八月二十日の産経新聞の「正論」に、新潟県立大学袴田教授が、

「教養とは、物事の本質を徹底的に考えぬくこと、あるいは、本物の芸術や文化に感動する感性を培うこと。(中略)日本人としての言葉と文化、教養を身につけることの大切さ、自らの民族性(アイデンティティー)を確立していない者が他者



の近く、神様の御奉参者一同、幣殿に上がって



大祭直会、楽しい余興に嬉しのおさがりの福当りと笑顔溢れて、賑やかに。



を理解できるはずがない。」と仰っていました。「教育勅語」で説いている事は、日本人らしさに他なりません。

御教祖の仰りたい事は、古事記から始まる日本人らしい神道精神を受けつないでいけと云う事ではないでしょうか。

信仰の基本は、神の存在を認識する事、この世に生を受け、今この時に感謝する事。實生教の真髄である御神宣や御霊感、業をす

る為のものではありません。もう一つ大切な事は、日本人らしさを学び、それを失わず、次の世代へつないでいくという事です。

ごくたまにですけれど、信徒さん方の中に、もつと奇跡を見せてくれと仰る方が居られます。

皆様、良く考えて下さい。皆人としてこの世に生を受け、家族に恵まれ、社会の縁に支えられ、毎日当り前の様に家族みんなが朝を

迎える。こんな当り前の日常こそ、日々、奇跡の連続の上に成り立っている。そう感じた事はありますか。そんな、日々目の前で繰

り広げられる奇跡に気付かなければ、今以上の奇跡など、起こり得るはずはありませんよ。

仕事、勉学、家庭環境、これらを心豊かにするのは、何と云ってもご本人方の努力が必要で。

その努力に邁進する為の健康、環境、ご縁を運んで下さるのが、神の力、ご祖先の守護なのです。

御教祖御生誕百五十年の最後の大祭にあたり、皆様と共に、より大神様、御教祖様、ご祖先方に好かれる信仰を心がけたいと思ってお話をさせて頂きました。

本日の大祭にあたり、総代様はじめ役員の皆様、有志の皆様には、数日来ご奉仕頂き、又数々のお供えを頂いたおかげで、秋之例大祭を斎行できました事、心より厚く御礼申し上げます。

教信徒皆様、益々御神徳に浴せられます様、心よりお祈り致しております。

さて本日、十月九日は御教祖様の祥月の命日でございます。

ご教話 御教祖様の祥月命日を迎え

教祖祭 (10月9日)

教父ご教話

こんばんは。ようこそお参りくださいました。今日も大変暑く思いましたが、いいお天気でした。

教会長も申しましたが、今日は御教祖の祥月命日という事で、お話を頼まれました。

御教祖は昭和二十年十月九日御本宮にて数え七十八歳で亡くなっておられます。私は今年七十八歳ですので、この歳で亡くなっておられます。お生まれは明治元年四月二十一日で、今年生誕百五十年、亡くなられ七十二年になります。

実際に私はその時、数え五歳なので細かい所まで覚えていません。本日は臆げに覚えている範囲と、父母から聞いた話を混ぜてお話しさせて頂けます。

御教祖が亡くなられる前後、昭和二十年、終戦と同時に父は田舎へ復員してきました。御教祖は、「このままでは大阪がどうなっているかどうかわからないから、是非見て来てくれないか。」と言って、父は御本宮を出発しました。出発日が九月三十日なのか、大阪に到着した日が九月三十日なのか不明ですが、おそらく九月三十日に出発したんだろうと思います。そして大阪に着き、野田

御本宮 月並祭

毎月第一日曜日 午前十一時半より

の教会で信徒さん方の動向を知らせて歩いたそうです。焼け出された信徒さんの数家族が野田の教会に住まわっていて、父が戻ってきた時には、自分の寝る部屋がないほどだったそうです。

その頃私達は、父が大阪に向かう時に、私達に「父は大阪へ行く。田舎にいるのもなんだから実家へでも行って時間を過ごしたらどうか」と言うので、母と私、姉の三人は名古屋の三輪の実家に行き、過ごしていました。

父が大阪に来て数日経ち十月九日を迎えた日、朝か夜かは不明ですが、田舎から電報が来ました。何事かと父が確認すると「祖父死すすぐ帰れ」と書いてあったそうです。

私達がいる名古屋へも九日に電報が届き、「祖父死すすぐ帰れ」と書いてあったのです。私達も一緒に帰るため、早速用意をしました。

また、名古屋の三輪のおばあさんが養老の長女であり、今は亡くなられた養老の初代教会長の姉だったのので、その頃から教会の付き合いもあり、深い親戚関係でもあった養老へも、この事を知らせないといけないと言って父が連絡をつけたそうです。

しかし、養老には「祖母死すすぐ帰れ」との電報が来ていたそうです。大阪等には「祖父死す」で、養老には「祖母死す」と書いてあったのだそうです。

それで、お互いに電話で話し合ったのか、二人一度に亡くなったようだと大慌てで出発したようです。

お葬式が何日だったかもお分らないのですが、恐らく田舎なので三、四日後だったと思います。大阪から父が、名古屋から私達が向かったのですが、父が一旦養老へきて、養老で私達と落ち合って御本宮へ向かったのだそうです。

その頃、汽車は貨物列車で、客車などない時代でした。屋根のない貨物列車に名古屋から乗り、トンネルに入るとぼたぼた水が落ちて来て傘を差しながら、富士駅に着いたのか三島駅に着いたのか不明ですが、夜に駅に着きました。

ところがその日は台風が来ていたのです。私達四人が富士駅で身延線に乗り換えて十島駅まで行くと、車掌さんが来て、電車はここから先へいけないとのことでした。「線路が落ちていますので、ここからは徒歩で行ってください。」と降ろされたそうです。

それが夜の何時かは不明ですが、山越えをしようとしようとして峠を越そうとしたら、道が見えない。今のよきに街灯はありません。困った、どうしようかと思っていたら、村の外れに明かりをつけている家がありました。

三輪のおじいさんが、「あの家に頼んで泊めてもらおうじゃないか。軒の下に寝かせてもらおうだけでもいいじゃないか。」ということでした。そのお家へ行き、「こうして子供連れなので、道を進めないから今晚軒下で泊めてもらえませんか。」と聞くと、きっぱりと断られたそうです。

しかし、「いや、なんとかお願いします。子供がいるのです。」とお願ひするのと、向こうが気の毒に思ったのか、「一体どこまで行くのですか。」と聞かれたのだそうです。「実は内船に行くんです。」と答える

と、「内船のどこに行くんだね。」と言われ、「八津へ行くのです」と言うと、「八津のどこへ行くんだね。」と聞かれたそうです。「八津の八津に行くんです。」と答えたら、「八津の八津ならうちの親戚だよ。」と言う訳で、このお家は親戚だったのです。

「何が起こったのか？」と聞かれ、「亀一(御教祖)の田舎で呼ばれていたお名前が亡くなったようです。」というのと、「なんと、それは大変なことだ。今晚泊まりなさい。」と言って、手のひらを返し私達を泊めて下さいました。私が覚えて

いるのは、足を洗って下さり、綺麗なお布団を敷いて寝かせて下さったことです。「朝は娘に八津まで送らせよ。あなたたちだけでは山道はわからないから。」と、朝が来たら送って下さり、何時に着いたのかは不明ですが、お葬式が済んだ後でした。

到着した時に、御本宮の住まいの方の前の道路に、教母様であるよねおばあさんが立っていました。電報の内容から御教祖とご教母様二人一度に亡くなったのではないかと想像していたのに、よねおばあさんが立っていたので、御教祖だけお亡くなりになったんだ、まだ安心したねというお話をしました。

「御教祖は今どこへ行っているの。」と聞くと、「今、遺体を山に埋めに行っているよ。お墓に持って行ったのよ。だから一人で待っているんだ。」と言っておりました。

以上が現実の話です。従って、御教祖が亡くなられた時、父も母も会っておられません。ただ最後に遺された言葉は伝え聞いています。御教祖が、「負けた。」と言いついて息を引き取ったという事です。

自分の命に負けたのか、日本が戦争に負けたことを仰ったのかは分かりません。その言葉が最期だったというのを、父は誰か聞いたのか不明ですが、私は父から伝え聞いています。寂しいお葬式だったのか、賑やかなお葬式だったのかも分かりません。あの頃はお葬式はみな仏教式で行われるので、お葬式は仏式で行ったようです。

その二カ月後の十二月九日に、父が、大阪から全て物を送って、本葬しようとして計画いたしました。ところがその頃は、まだ、鉄道が大変不便で、復興もしておらず、切符を買うのですら思うように買えない状況でした。もちろん列車に思うように乗れません。当時は荷物を思うように送れませんでした。

しかし、信徒さんの中に、今でいう国鉄の鉄道局に勤めておられる斉藤さんという地位の高い方が大変便宜を図って下さり、全ての荷

物を送って下さいました。そのお蔭で、十二月九日神式で御教祖の本葬ができました。それも全部父が行ったそうです。田舎では何の用意もできなかったようです。

これが御教祖が亡くなった前後のお話です。それから、私達は、大阪を放っておいてはいけません。御教祖があれだけ大阪に行ってくれと言っておられたのだから大阪に行こうではないかということ、ご教母様と共に、大阪へ出発したのが昭和二十年十二月二十八日の年末でした。

列車に乗り、二十八日か二十九日の真つ暗な夜に大阪に着きました。大阪に帰ってきて、子どもながら哀れだなあと感じました。家に入ったら二階の一室だけ空けて下さって、私達はそこで寝起きをしました。

お正月が早速きましたが、なんの用意も出来ません。でも父は元旦祭を形だけ執り行ったようです。それから大阪本部の始まりです。ご教母様のよねおばあさんは、二年後昭和二十二年二月一日に大阪で亡くなりました。その時私が七歳で、夜はおばあさんの隣で寝ていました。夜の十二時くらいに、「徳久(現教

平成31年度 『月並運勢表』

申込み受付(11/15~12/15)

祝祭日には必ず国旗を掲揚しましょう

開封のまま

住所	氏名
職業	
来年度の 数え年	(教会所定の 封筒)

教信徒の道しるべ。各家の来年度の月並運勢表を、左記の通り受付致します。

記

一、教会所定封筒に住所、氏名、職業(具体的に)、来年の数え年を表書きし、申込み幣帛料(金壹萬円)を中に入れて、開封のまま教会事務所へお出しください。

一、申込みは教信徒で維持費納入者に限ります。

一、申込み期日は、十一月十五日より十二月十五日までです。

一、運勢表の授受は、平成三十一年元日です。

※新入会の方、初めて申込みされる方は、詳細等を遠慮なく教会事務所にお聞きください。

父の旧名)起きなさい。」と起こされて、何かと思つたら「よねおばあさんが亡くなつたので起きなさい。」と言われました。おばあさんの隣で寝ていたので、何事かなと思ひました。よねおばあさんは大阪でお葬式を行いました。

少し話が廻りますが、御教祖が疎開なさつたのは、昭和二十年二月十四日です。大阪の空襲で野田の中央市場の方は焼けたことで、高齢の方と子供は疎開して下さいということで、大阪の住民は三月の二十日すぎには疎開しようです。もし疎開してなければ、もう少し御教祖は長生きして

おられたかもしれません。何故なら、内船の御本宮は経済的に大変疲弊している時代だったので。食べるものが十分にありませんでした。

私達は子供ながらも、なんと哀れな食事だなあと思ひました。田舎なのに毎日白いご飯が食べられない。農業をしていたらお米があるはずなのに、どういふことか無かつたのです。サツマイモや何かのツルを食べていたもので、御教祖は栄養失調だつたと思ひます。御病気で亡くなられたのか、突然亡くなられたのか聞いていませんが、御教祖が大阪におられたら、もう少し食料は

まじだつたかもしれません。何故かというところ、西播磨が大変恵まれていたからです。後で聞いた話では、田んぼや畑を持つておられて自給自足だつたので、戦争中食事に困らず、ひもじい思いをしたことがないといふことでした。もし御教祖が大阪におられれば、西播磨が食料を運んでくださったかもしれません。そう思うと、御教祖が疎開されたことが、寿命を縮めたのかなと思つたりも致します。

御教祖の御蔭で、私達はどうして信仰をしております。御教祖の御力があればこそです。この教えは神様から直接靈感靈動を頂けま

すが、御教祖があつて初めて私達も頂いております。御教祖の教えを大切に、伝えていくのも信徒のお努めです。権現家だけではありませぬ。信徒一人ひとりがその力をご家庭に、社会に生かして頂いてこそ、教えが広がっていきます。

失礼ですが、今は便利信仰に走っているのではないかなと思ひます。御神宣に來れば何でも教えてくれるのではないかと、つい甘えておられるかもしれません。やはり、神様に仕える、尽くすということが大切です。神様に仕えるんだ、また、御教祖に好まれる人間になるんだという努力が必要だと思ひます。

本日はようこそご参拝、ご苦勞様ございました。

教会行事

十一月一日(木)	月並祭	午後七時
三日(祝)	西播教会秋之大祭	午前十時半
四日(日)	御本宮月並祭	午前十一時半
八日(木)	修行日	午前十一時、午後七時
九日(金)	修行	午後七時
十日(土)	教祖祭	午前十一時
十一日(日)	七五三式	午後七時半
十五日(木)	養老教会秋之大祭	午前十時半
十五日(木)	(開設九十周年記念)	
十八日(日)	月並祭	午後七時
二一日(水)	名古屋地区敬和会	
二二日(水)	宝生会(信楽CC)	
二三日(祝)	東京地区敬和会	
二五日(日)	修行日	午前十一時のみ
十二月一日(土)	月並祭	午後七時
二日(日)	御本宮月並祭	午前十一時半
八日(土)	御本宮遙拜式	午前九時
九日(日)	修行日	午前十一時、午後七時
九日(日)	教祖祭	午前十時

寶生教 国旗掲揚運動